

文京ふるさと歴史館

BUNKYO MUSEUM NEWS

だより

第17号／平成22年6月22日発行

文京ゆかりの名優・花柳章太郎—その人と芸—	2
子どものための錦絵—おもちゃ絵と教育錦絵—	4
本郷の かねやすまでが 江戸の内？	6
平成21年度のあゆみ	7
資料をご寄贈くださった方々	8
平成22年度の催し	8

文京ゆかりの名優・花柳章太郎

その人と芸

名優の足跡

花柳章太郎。明治、大正、昭和を通じ、55年余の舞台人生を歩んだ名優。今年で没後45年を迎え、その足跡は残念ながら人々の記憶から遠くなりつつあります。文京にもゆかり深い花柳章太郎について、その生涯を振り返ってみたいと思います。

花柳章太郎（本名・青山章太郎）は、明治27年（1894）日本橋本銀町（現、中央区）に生まれましたが、まもなく父が没したため、下谷黒門町（現、台東区）を経て、大間々（現、群馬県）の祖父のもとで育ちます。明治35年、8歳の時、母と姉が芸者屋を構えた湯島同朋町（現、湯島三丁目）に移り、のち湯島天神町三丁目（現、湯島三丁目）湯島天神下に居住します。大正12年（1923）の関東大震災の年に大阪に移る29歳まで、幼年～青年期を過ごした湯島は、花柳章太郎にとって「懐かしい故郷」となりました。

花柳章太郎は、明治35年から、中坂下にあった私立練雪小学校、明治37年からは湯島小学校、そして明治41年から同42年に卒業するまで本郷高等小学校に学びます。¹

その間の明治41年、母に伴われ、新派俳優の喜多村緑郎に入門したのが、役者への第一歩でした。学校からも近い春木町（現、本郷三丁目）にあった本郷座の楽屋へ靴を担いだまま通い、修業を積みました。当時本郷座は新派の本拠地として、喜多村のほか、高田実、伊井蓉峰、河合武雄といった俳優たちが、新聞小説など新しい脚本を次々に上演し、新派の全盛期、つまり「本郷座時代」を迎えていた頃でした。

花柳章太郎は、明治41年6月新富座での「変化傘」の小僧役で初舞台を踏み、同年10月本郷座での「未亡人」で初めて女の役をつとめました。

入門時、「10年は忍耐するように」と言われた花柳章太郎に転機が訪れたのは、大正4年、20歳の時でした。3月、本郷座での「日本橋」（泉鏡花作）初演の折、脚色者・真山青果の推挙によって、お千世という大役を与えられ、その演技が認められたのでした。これを機に、女形を中心に着々とその芸を磨き、大正6年には新派の幹部に昇進しました。

しかし、大正初期の新派は伊井・喜多村・河合の三頭目時代といわれる一方で、全盛期を過ぎ、沈滞と再興を繰り返す時代を迎えていました。そのなかで花柳章太郎は、師の喜多村からも離れ、さまざまな演劇活動に身を投じます。

大正9年 井上正夫一座に加入。

大正10年 新派研究のため藤村秀夫、小堀誠らと「新劇座」を結成。



大正12年 大阪で藤村秀夫、梅島昇らと「新進新派」結成。
昭和2年 東京に戻り、歌舞伎の若手や松竹の映画女優を加えて「松竹新劇団」を結成、浅草で活躍。
昭和6年 「花柳巷談 二筋道」（初代瀬戸英一作）の連作によって、人気を不動のものとする。
昭和14年 大矢市次郎、伊志井寛、柳永二郎、川口松太郎、大江良太郎らと独立劇団「新生新派」を結成。
同年 初めての映画出演「残菊物語」（溝口健二監督）。
昭和20年までに6本主演（新生新派共同制作）。

戦時中は、主要劇場が閉鎖されるなか、新生新派は工場慰問や移動演劇などで、わずかに活動を続けました。戦後になると、それまで四散していた新派をまとめ、昭和24年（1949）新派大合同として「劇団新派」を結成、女優・初代水谷八重子との二枚看板で、脇を固める俳優陣や、久保田万太郎、川口松太郎、北條秀司、中野實らの作家兼演出家に支えられながら、歴史に残る名作を次々に上演しました。女形のみならず、男役、老け役に至るまで幅広い役をこなし、人々を魅了しました。昭和34年、重要無形文化財保持者（人間国宝）に指定され、昭和36年に日本芸術院会員となり、昭和39年には花柳章太郎の代表作として「花柳十種」が評論家らによって選定され、同年文化功労者となりました。

活躍の一方で、晩年は病氣休演も増えました。そして、昭和40年1月4日、新橋演舞場で「大つごもり」「寒菊寒牡丹」に出演後倒れ、6日、東京大学附属病院小石川分院（文京区目白台）で、不世出の女形はその生涯を終えました。享年70歳でした。

活躍の一方で、晩年は病氣休演も増えました。そして、昭和40年1月4日、新橋演舞場で「大つごもり」「寒菊寒牡丹」に出演後倒れ、6日、東京大学附属病院小石川分院（文京区目白台）で、不世出の女形はその生涯を終えました。享年70歳でした。

「余芸」の世界

花柳章太郎は、新派俳優としての芸を極める傍らで、絵画、スケッチ、陶芸、染色、人形、七宝、ガラス絵など、さまざまな他の芸術にも傾倒し、そのいずれもが玄人はだしで、余芸というには余りある才能を発揮しました。しかもそれは単なる趣味ではなく、さまざまな表現から美や色彩を探求していくことすべてが、本業である舞台への糧となっていたのでした。

まず若い頃熱中したのが人形（土偶）作りで、舞台の間などに制作し、あまりにもものめりこみすぎたため、長男・喜章が初舞台を踏むのを機に止めたという逸話が残っています。また、どこに行くにもスケッチブックや手帳を懐に忍ばせ、風景や鑑賞した舞台の様子などを、鉛筆や淡彩で軽快に描いていました。



「歌行燈」（泉鏡花作）の
恩地喜多八（昭和15年）



花柳十種のうち「夢の女」
（永井荷風作）のお浪（昭和35年）



「湯島の境内」花柳章太郎画 昭和35年
『婦人之友』連載の随筆「東京恋慕帖」の挿絵原画

随筆や小説、俳句など文筆にも長け、生前出版された著書や句集は13冊に及びます。笹竜胆の紋を刷り込んだ自分用の原稿用紙に、独特な筆跡で書かれた原稿は、膨大な量が残されています。手元にある手帳に手当たり次第に書き付けられたメモも、興味関心の多彩さや、記録魔ぶりを顕著に表しています。

さらに衣裳、櫛・簪などを収集したことで知られます。それを趣味として楽しむだけでなく、実際の舞台上で使用するため、心血を注いで膨大な数を誂え、集めました。現在、衣裳の多くは早稲田大学演劇博物館、櫛・簪類は国立劇場に収蔵されています。

幅広い交友関係

こうした演劇や他の芸術活動などを通じて知り合った人々との関係は、実に多彩でした。演劇関係においては、同じ舞台をつとめた俳優たち、作家や脚本家、演出者、舞台美術家など。ほかにも画家、工芸家、舞踊家、茶道家など、錚々たる人々とのきわめて幅広く深い交友関係があったことが知られます。

洋画家・木村莊八とは、昭和8年頃、舞踊家・初代花柳寿美の紹介でデッサンを教わるようになり、友人としても長く付き合いました。その交友は、花柳章太郎の手元に残された、木村莊八の絵手紙からも見て取ることができます。ほかにも親友でもあった日本画家・伊東深水、衣裳考証で共に仕事をした小村雪岬、鏑木清方、奥村士牛、昭和33年に花柳章太郎が渡欧した時に訪問した藤田嗣治など、多くの画家たちとの交流がありました。陶芸では、千家十職の永楽善五郎や、瀬戸の鈴木青々などの窯に通って制作をしていました。その道の一流の人と交流することは、自らの芸にさらに磨きをかけただけでなく、まさに花柳章太郎を支える財産となっていたのです。

文京とのゆかり

花柳章太郎が、幼少～青年期に湯島に暮らし、湯島で学んだことは前述したとおりです。また本郷座の舞台を踏んだことや、文京を舞台にした作品「婦系図」や「通夜物語」への出演、樋口一葉の作品や一葉自身を演じることでつながり、湯島天神への梅の献木など、文京とのゆかりは数多くを挙げるすることができます。そのなかで、故郷・湯島と花柳章太郎をつなぐ逸話をひとつ紹介したいと思います。

昭和39年11月のある日、新橋演舞場の花柳章太郎の楽屋に来客がありました。それは湯島小学校の校長先生、PTA会長、そして2人の児童でした。児童の描いた絵を携え、文化功労者選定の祝いのために訪問したのです。花柳章太郎はたいへん喜び、その絵を楽屋の鏡台前に飾りました。翌月25日、終業式の日、今度は花柳章太郎が湯島小学校を訪れました。久しぶりに訪れた小学校で、自分の生い立ちや、湯島での思い出、小学校のとき「一生けんめい」を「いっしょうけんめー」と書き間違い、それが座右の銘になったことなどを全校児童に語りかけました。年明けの6日、花柳章太郎はこの世を去ることになるのですが、人生の終わりを目前にして、奇しくも故郷に錦を飾ったのです。



「湯島小学校の話」昭和39年12月
講演のための自筆の下書き

花柳章太郎を伝える

平成16年度及び21年度、花柳章太郎の長男・喜章の元マネージャーであった林靖治氏を通じて、青山家に残されていた花柳章太郎・喜章の遺品、林氏の収集した演劇関係資料などが、ゆかりの深い文京区に寄贈されました。その内容は、自筆資料・原稿、絵画・スケッチ、来信書簡、使用台本、筋書・パンフレット、遺品・愛用品、写真・プロマイド、書籍類など、実に多種多様で、計5,000点を超える膨大な量です。

このたび整理が一段落したことを機に、文京にゆかりある名優・花柳章太郎についての特別展を本年10月16日から11月28日まで開催することにいたしました。この貴重な資料群を区民をはじめとするみなさまに広く公開し、関連機関からの借用資料も加えて展示を行います。花柳章太郎が新派という演劇にかけた人生や、優れた芸術活動、幅広い交友関係、文京とのゆかりを改めて振り返り、現代において再評価し、そして未来に伝えていく機会になればと考えています。みなさまのご来館をお待ちしています。

(川口明代)

1 花柳章太郎は、就学年次について複数の著作の中で様々に述べているため、一部確定できない部分がある。



花柳章太郎使用台本
「多情佛心」昭和11年



花柳章太郎愛用の煙草入れ
実際の舞台でも使用された

子どものための錦絵 おもちゃ絵と教育錦絵

当館では、平成5年夏の企画展として「子ども錦絵展」を開催しました。その際に、当館に寄贈された田村家資料のなかから“おもちゃ絵”と“教育錦絵”を展示、紹介しました。本年度の収蔵品展では、改めてこれらの資料に着目し、おもちゃ絵と教育錦絵を中心として、昔の子どもの遊びや学びについて展示する予定です。子どものために描かれた錦絵といっても、その図柄や制作事情によって、用途は様々です。それぞれのおもちゃ絵や教育錦絵が、子どもたちにどのように遊ばれたのかを紹介します。

おもちゃ絵

“おもちゃ絵”とは、主に子どもを対象としたもので、江戸時代の後半から明治時代の中ごろまで出版されていました。子どもに親しまれていた様子は、文化6～10年(1809～13)に刊行された式亭三馬の『浮世風呂』にも書かれています。朝から昼前の女湯を書いた場面で、母親の会話に出ています。

...金紙だの行成紙だの益にもたゝぬことに切こまざいで遣い捨ますし、夫にまたアノ、替り絵とやら申てネ、あつちこつちへひつくりかえつて、役者の早がはりの絵がございます。夫をおまへさん、買程にへ、箱に一ツぱい溜つてさ、私も肝が潰れましたはな。...

子どもが金紙や行成紙(薄い藍色や金色に染め、雲母で紋を型置きした鳥の子紙のこと)や替り絵などを欲しがり、それが沢山溜まるため、母親が困っている様子わかります。

双六、福笑い、千代紙なども、おもちゃ絵の一種です。子どもが遊ぶために描かれたものですが、なかには子どもがひらがなを覚える、物の名前を知るといように学習に役立つようなものもあります。

また、おもちゃ絵には、猫を描いたものもあります。「志ん板猫づくし」(表紙参照)は、書画会の様子を、猫を擬人化して描いています。書画会とは、江戸時代に始まったもので、文人墨客が集まり、即席で書画をかけた会のことです。絵の中では、筆を揮う、絵の品評をするなど書画会に集まる人々が、猫に見立てられています。「行水猫のたはむれ」(図1)は、走り回



図1 行水猫のたはむれ



図2 志ん板ねこづくし

る子猫、子猫を抱き上げる猫、滑って転ぶ猫など、風呂屋の賑わう様子がわかります。この絵は、「おもちゃよし藤」とも呼ばれ、たくさんのおもちゃ絵を描いたことで知られている歌川芳藤によって描かれました。ほかにも「新版猫生徒たはむれあそび」では、なわとび、いしけり、たまげ、わなげなど、子どもの遊びをする猫が、描かれています。

さらに猫を描いたものでも「志ん板ねこづくし」(図2)は、

猫を擬人化せず、猫の様々なしぐさを紹介しています。猫の他に、雀や馬なども描かれることがありますが、現在知られているおもちゃ絵では、猫を扱うものが多いです。なぜ猫が題材としてよく選ばれたのか、理由はわかっていません。

田村家資料のなかには、ハサミで切り取って遊ぶおもちゃ絵があります。「新版さつじん」には、様々なお札が描かれています。絵として楽しむだけでなく、切り取って買い物ごっこなどに使ったのではないのでしょうか。「新版両面子供の着せ替」(図3)は、着せ替え人形のおもちゃ絵です。正面と後姿があり、貼り合せると両面の人形になります。同様に着せ替える衣装も、前と後があります。「新版コウバコ」は、箱の展開図が描かれており、それぞれの面に役者や花などの絵が描かれています。図の通りに切り取り、のりしろを貼ると箱ができるようになっています。これらのおもちゃ絵では、子どもがハサミで絵を切り取り楽しむと同時に、ハサミに慣れるという効果もあったと思います。ほかに、

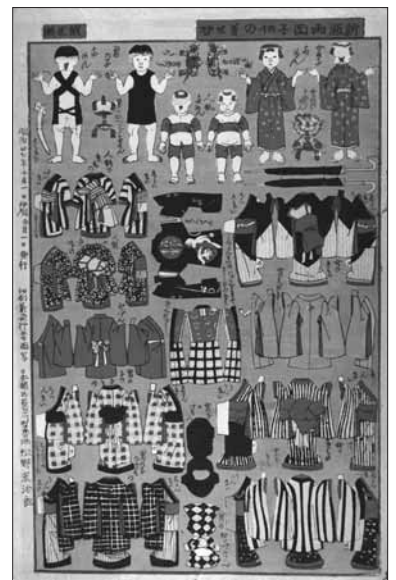


図3 新版両面子供の着せ替

様々な物の絵と名前をかき連ね「尽くし」と題したものや、絵を切り取ると歌舞伎などの舞台になる立版古などもあります。おもちゃ絵は、子どもの気を引く仕掛けや色の鮮やかさなど、子どもが楽しく遊ぶものでしたが、一方で、物の名前を知る、ハサミを使うなど遊びながら、何かを身につける手助けにもなっていたのです。

教育錦絵

“教育錦絵”は、明治6年(1873)10月17日の文部省布達により作られました。

諸府県

幼童家庭ノ教育ヲ助ル為ニ、今般当省ニ於テ各種ノ
 絵画玩具ヲ製造セシメ、之ヲ以テ幼穉坐臥ノ際遊戯ノ
 具ニ換ヘハ、他日小学就業ノ階梯トモ相成...

明治六年十月十七日

文部省三等出仕

正五位 田中不二磨



図4 衣食住之内家職幼絵解之図

各府県に出された布達には、子どもの家庭教育のために錦絵を作り、それを子どもの遊び道具とすれば、小学校での学習の助けとなるとしています。現在、教育錦絵は104枚確認されており、田村家資料には、そのうち63枚があります。何枚かがセットになり、ある主題について描いています。例えば、家の完成までや、米や茶や蚕の生産について、物理の基礎的な原理についてなどです。

「衣食住之内家職幼絵解之図」(図4)では家が建つまでを17枚に分けて詳しく絵で説明しています。最初に家を設計し、木を伐りだすところから始まります。家を建設するのに関係のある大工、左官、鍛冶屋、建具屋、瓦屋など様々な職人を描いています。描いたのは歌川国輝です。国輝は二代目で、慶応元年(1865)頃、名前を国綱から改めたとされ、開化絵や鉄道絵も描いています。教育錦絵を描いた絵師のなかで、名前が分かっているのは、国輝だけです。

「茶植附の図」「茶摘の図」「茶を製す図」(図5)では、お茶のできるまでを、茶の木を植える作業から描いています。これも、国輝が描きました。「衣食住之内家職幼絵解之図」や「茶植附の図」「茶摘の図」「茶を製す図」は、普段、子どもがなかな



図5 茶を製す図

か知ることのできない仕事や作業について、詳しく紹介しています。

さらに「計枡(図6)」「指・曲尺」「秤・分銅」では、度量衡を説明し、計る際に使用する道具(枡・物指・分銅など)も描かれています。このように、単位とその換算を覚えるのに役立つものもありました。教育錦絵は、小学校の学習に役立つために作成されたものであるため、学習内容に直結するような題材が選ばれました。



図6 計枡

子どものための錦絵?

子どものために描かれたおもちゃ絵や教育錦絵ですが、その絵には、社会を映すという側面もあります。猫を擬人化したおもちゃ絵では、当時、賑わっていた様々な場所を描いたと考えられます。教育錦絵では、「衣食住之内家職幼絵解之図」で家が完成するまでを紹介し、「茶植附の図」「茶摘の図」「茶を製す図」では、お茶のできるまでを扱うなど、日常生活では接する機会の少ない職業や産業を紹介しています。おもちゃ絵や教育錦絵は、子どもが楽しむと同時に、様々なことが学べるような内容になっていました。

一方でおもちゃ絵は、子どもの遊び道具という他に、大人も興味を持っていたと考えられます。現在まで、切り取って使うはずのおもちゃ絵が切り取られずにそのまま遺されている、子どもがおもちゃとして遊べば絵が傷むはずなのに、きれいな状態で目にすることができることを考えると、子どもが遊ぶ以外に、大人もおもちゃ絵を収集していた可能性があります。猫を擬人化した絵では、書画会や風呂屋の他に、遊廊も描かれています。おもちゃ絵は、単純に子どもだけを対象としていたのではなく、大人も視野に入れて描かれていたのではないのでしょうか。

本来は子どものために描かれた絵でしたが、大人にも楽しまれていたのです。

(齊藤智美)

【参考文献】

- 中村光男編著『よし藤・子ども浮世絵』1990年 富士出版
- 『江戸明治「おもちゃ絵」』1976年 アド・ファイブ文庫
- 唐沢富太郎『明治百年の児童史 上』1968年 講談社
- 佐藤秀夫、中村紀久二編『文部省掛図総覧 二 幼童家庭教育用絵画』1987年 東京書籍

本郷の かねやすまでが 江戸の内？

川柳に詠まれた「かねやす」

文京区本郷二丁目に所在する洋品店・かねやすは、享保年間（1716～36）創業の、「抜き歯入れ歯かねやすが見世に詰めたらん」「かねやすは普段祭りの通るよう」など、いくつかの川柳にも詠まれた老舗です。¹ 最も有名な句としては、「本郷もかねやすまでは江戸の内」がお馴染みのことでしょう。

江戸文化研究などでは、かねやすの江戸時代当時の所在地を境に都市景観が一変していた。具体的には、南側の地域には牡蠣殻葺きの屋根や土蔵造りが多い都市的風景で、北側の地域は板葺きや萱葺き屋根の、農村に近い風景であったという認識が持たれる傾向が見受けられます。²

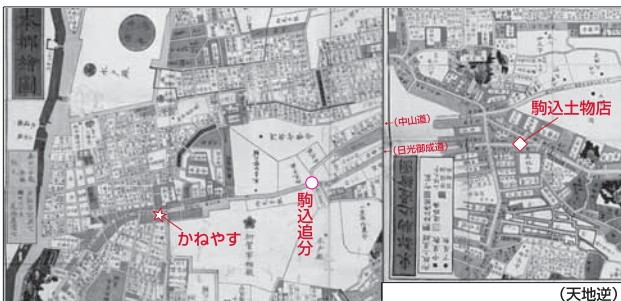
しかしながら果たして、特定の店舗を境に、まちの風景が一変するなどということがあり得たのでしょうか。

屋根の葺き方の違いは、江戸城外堀（現在の神田川）を境界として、その南北で町屋の建物を建てる際に屋根に葺かれる部材の違いや構造を変えるようにとした、享保5年（1720）の触書によるものですが、これは「命令」でなく「奨励」であったとされ、地域の設定自体も本郷三丁目ではなく江戸城の外堀を基準としています。かねやすの創業年代との整合性の点からみても、疑問が拭きえません。

牡蠣殻葺きについても、遺跡の発掘調査事例や絵画資料の検討から、その普及度合の実態や、防火や鎮火に果たした有効性については疑問視する見解も出されています。³

かねやすの所在地は、日本橋から約2.5km、中山道の最初の一里塚・駒込追分まで約1.5 kmに位置し、都市計画道路の整備等で現在地に移る前は、街道の反対（東側）の町屋にありました。かねやす以北には加賀藩前田家を始めとする大名屋敷や寺社等が立ち並び、街道沿いのまちなみは、瓦葺きが主体であったことが発掘資料などからも裏付けられます。

景観が実質的に変化するのは、駒込追分の一里塚から、岩槻街道（日光御成道）を更に1.5km程北上した地点、駒込のやっちゃば（土物店）の所在地あたりと考えるのが妥当なです（下図参照）



江戸切絵図「小石川 谷中 本郷絵図」「東都駒込辺絵図」（部分）
かねやす所在地（江戸時代当時） 駒込追分 駒込土物店（やっちゃば）

江戸の範囲も問題です。江戸時代後期に作製された、いわゆる「朱引き図」等でも、町奉行支配地を示す黒線と、寺社奉行動進地を表す赤線の不整合性が疑問視されている様に、江戸時代当時においてさえ、幕府自身が江戸の具体的な範囲については明確にはしていなかったのです。⁴

以上のことから、かねやすという特定の店舗を境として町の風景から農村の風景に変わっていたと理解することは、根拠に乏しいと言わざるを得ないのが実情です。

川柳という文化の持つ意味

川柳は様々な理由や背景の下につくられました。⁵ 例えばご政道（幕府）を批判する目的や社会風刺として。また、ある時には、何らかの事物を宣伝する目的のために。慶応3年（1867）4月23日。土佐脱藩浪士・坂本龍馬が組織した海援隊のいる丸が、瀬戸内海讃岐沖で紀伊徳川家の明光丸と衝突、沈没します。龍馬は「万国公法」を典拠として交渉する一方、交渉場所となった長崎で、「船を沈めたその償いは、金を取らずに国を取る」という川柳を流布させます。ペンは剣よりも強し。海援隊の業務を継承した土佐商會が、紀伊家から賠償金7万両を得たことは有名です。



大正年間のかねやす
『文京の史跡めぐり』より

歯磨き粉を買いに

件の川柳が、字句どおり都市と近郊農村との境界を意味して詠まれたのなら、なぜ、かねやすと本郷なのでしょう。なぜ、江戸の東、西、南の限り（範囲）に関する句はなく、北だけが特別に詠まれたのでしょうか。この謎を解く鍵は、かねやすという店舗の存在、そのものにあるのです。

かねやすは歯磨き粉の一種、乳香散の販売や歯の治療で大変に繁昌したことが伝えられています。これを手懸りに、1970年代を代表する宣伝文句を例にみてみましょう。

「伊東に行くなら、電話は4126」。温泉地・伊東にお越しの際は、へ。電話番号は良い風呂です。実際に電話する場合は局番が必要ですが、情報は簡潔かつ確に伝えられ、諳んじること容易です。つまり、かねやす、本郷、江戸という具体的な名詞が詠まれていることこそが、この川柳が伝えようとしている情報そのものなのです。

江戸では名所観光や買物に行くための、現代の情報誌にあたる地誌類が、数多く出版されていました。⁶

「本郷もかねやすまでは江戸の内」とは、評判の高いかねやすに、買物に行くための江戸時代版CMソング、キャッチコピーとして理解することが妥当です。（加藤元信）

- 1 興津 要 1990 『探訪 江戸川柳』時事通信社
- 2 神田 忘人 1989 『朝日選書377 江戸川柳を楽しむ』朝日新聞社
- 3 佐藤 要人 1998 『江戸川柳便覧』三省堂
- 4 和歌森太郎ほか 1968 『住民の生活と文化』『文京区史』巻二 文京区
- 5 寺島 孝一 2005 『アスファルトの下の江戸』吉川弘文館
- 6 師橋 辰夫 1984 『江戸の範囲』『東京の社会教育』第30巻第3号 東京都教育委員会
- 7 吉原健一郎 1999 『落書というメディア 江戸民衆の怒りとユーモア』教育出版
- 8 東京市役所 1929 『菊花造物』『東京市史稿』遊園篇巻二 東京都
- 9 西山松之助 1974 『江戸買物独案内』『江戸町人の研究』第3巻 吉川弘文館 ほか

平成21年度のあゆみ

小・中学生のための歴史教室

「歴史館でクロスワードに挑戦 わがはい君探偵団！」

文京ふるさと歴史館

7月22日(水)～8月30日(日)

参加者数.....204人



歴史教室ポスター



参加風景

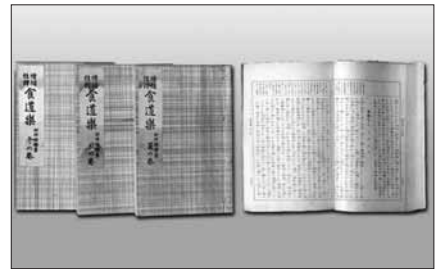
歴史講座

「明治のベストセラー『食道楽』の著者 村井弦斎」

／黒岩比佐子氏(ノンフィクション作家)

9月5日(土)会場:ふるさと歴史館視聴覚室

参加者数.....55人



歴史講座関係資料

特別展

「実録!漫画少年誌 昭和の名編集者・加藤謙一伝」

10月25日(土)～12月7日(日)(延べ38日間) 入館者数.....3,258人

記念講演会

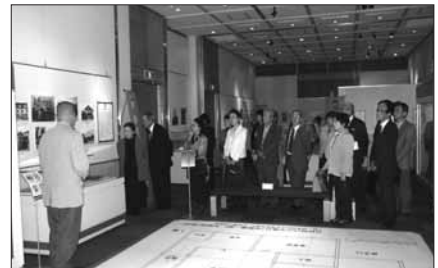
「父、加藤謙一の思い出と学童社、漫画少年のふるさと文京」／

加藤丈夫氏(富士電機ホールディングス特別顧問) 参加者数.....107人

「『漫画少年』が後のマンガ文化に与えたもの 読者投稿欄が輩出した漫画家たち」／

内記稔夫氏(現代マンガ図書館館長) 参加者数.....55人

展示解説 10月28日(水) 11月11日(水) 11月25日(水) 12月2日(水)



特別展

収蔵品展

「火鉢 暮らしのぬくもり展」

2月13日(土)～3月22日(月)(延べ33日間) 入館者数.....2,519人

展示解説 2月25日(木) 3月11日(木)



収蔵品展

ミニ企画

4月29日(水)～8月12日(水)「生活をささえた道具たち」

8月13日(木)～12月23日(水)「戦前・戦後のこども雑誌」

1月5日(火)～3月22日(月)「発掘された江戸の四季と暮らし」

3月25日(木)～4月25日(日)「掘り出された文京の古代」



ミニ企画 掘り出された文京の古代

史跡めぐり

第1回 7月14日(火) 東大の近代建築を訪ねる! 参加者数.....45人

第2回 11月12日(木) 秋、江戸川橋周辺の名庭園を訪ねる!

参加者数.....40人

第3回 3月16日(火) 駒込追分・根津に江戸の面影を訪ねて!

参加者数.....45人



史跡めぐり

入館者40万人達成！

おかげさまで、去る平成22年5月28日（金）に、東久留米市在住の重松美佐子様を、記念すべき40万人目の入館者としてお迎えできました。

当館としましては、これからも、魅力ある文京区の歴史と文化を皆様にお伝えし、皆様と共に歩んでまいります。

ご支援のほど、よろしくお願いいたします。



平成22年度の催し

ミニ企画

文京の町名今昔 新しい名前がつけられた！
4月28日（水）～9月5日（日）
その他のテーマにて、年度内に計3回の企画展示を予定しています。

小・中学生のための歴史教室

クイズ「わがはい君調査隊！昔の町名、今はどこ？」
7月21日（水）～8月31日（火）
文京ふるさと歴史館の展示を見学して、文京区の町名に関するクイズに回答していただきます。

特別展

文京ゆかりの名優・花柳章太郎 その人と芸
10月16日（土）～11月28日（日） 11月3日（文化の日）は無料公開日
明治末～昭和時代に活躍した新派俳優・花柳章太郎の生涯と、美と色彩を追求した多彩な芸術について紹介します。

史跡めぐり

歴史館友の会文京まち案内ボランティアが、区内の史跡等をご案内します。
年3回（6月、10月、2月）開催予定。要申込（往復はがきにて）。参加費40円。

歴史講座

「朝鮮人参栽培と小石川薬園 徳川吉宗の秘策」（仮）
10月9日（土）13時半～15時半（予定） 会場：男女平等センター
現在の小石川植物園などに関わる講演を行います。講師は田代和生氏（慶應義塾大学教授）です。要申込（往復葉書にて）。参加費200円（参加者は当日に限り、歴史館の入場料が無料となります）。

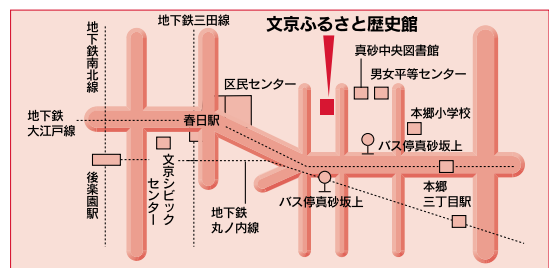
収蔵品展

おもちゃ絵の世界 子どもの遊びと学び（仮）
平成23年2月12日（土）～3月21日（月・祝）
収蔵資料の中から「おもちゃ絵」や「教育錦絵」を中心とした企画展示を実施します。

事業内容の詳細は「区報ばんきょう」および歴史館ホームページにてお知らせします。

利用のご案内

- ◆開館時間：午前10時から午後5時まで
- ◆休館日：月曜日・第4火曜日（休日にあたるときは翌日）
くんじょう期間、年末年始
- ◆入館料：一般個人100円、団体（20人以上）70円
中学生以下・65歳以上無料
*特別展は別に定めます
- ◆交通：地下鉄／丸ノ内線・大江戸線本郷三丁目駅、
または三田線・大江戸線春日駅から徒歩5分
バス／都02 上69 真砂坂上から徒歩1分
- ◆ホームページ：<http://www.city.bunkyo.lg.jp/rekishikan/>



文京ふるさと歴史館

〒113-0033 東京都文京区本郷四丁目9番29号 電話(03)3818-7221